

鵜住居区復興まちづくり協議会・地権者連絡会
①新神町内会、川目町内会 議事要旨

記

- 日時 平成 26 年 4 月 12 日（土）17 時 00 分～18 時 30 分
- 場所 UR 都市機構事務所
- 次第

1. 復興まちづくり協議会会長挨拶
市長挨拶

2. 鵜住居川水門及び片岸海岸防潮堤について（岩手県沿岸広域復興局）

- 事業工程は、設計が進み地盤が悪いことが明らかになり、液状化対策等が必要なため、事業期間が長くなる説明をしました。（当初平成 27 年完成予定から平成 29 年度末完成予定に変更。）
- 整備を行う鵜住居川水門、片岸海岸防潮堤の整備計画概要について説明をしました。

意見交換について

水門工事と片岸堤防は土地の買収・収容で解決されるようだが、片岸地区の説明会ではバイオパワージャパンという企業誘致の説明があった。この水門と堤防の買収以外に、危険水域に残った土地は都市公園法でと当初説明されたが、どうなっているのか？ 地権者が多くおり、知りたい。

→ バイオパワージャパンとは、釜石市が企業立地協定を結んで立地に向けた段取りをしているところです。片岸の J R 山田線より東側をその企業が使う詳細について、現在詰めをしています。また、都市公園として整備するため、これから用地買収や必要な都市計画決定等の手続きを進めていくところです。水門の根っこのあたりに浸水を軽減する公園を計画しており、かつて「みのすけ沼」があったこともあり、灌水機能を持つ公園の整備を考えています。

今の説明で 11 ヶ月早く終わったとの説明があったが、完工が平成 29 年に遅れるのはおかしいと思うが、どういうことなのか？ 平成 27 年、28 年頃から家が建てられるのに、29 年まで水門や防潮堤ができないのは困るわけだが、どうしてそうなるのか？ この前の復興新聞にも前倒しで工事が進むような表現で、最終的に 31 年と書いてあった。27 年に家を建てられるようになって、家を建てられないということが出てくると思うので、うまく防御できる説明ができなければと思うが、どうなのか？

→ 平成 31 年 3 月の水門工事完成は契約工期によるもので、実際には 30 年 3 月（29 年度末）に完成します。早くなっているのに全体的には遅れているのは、当初は概略設計で、その後地盤や防潮堤の検討が進み、工事発注の際に実際の工程が見えてきたためです。より具体的な工程になったとご理解いただきたいと思います。住宅の安全性ですが、水門より上流側は河川の災害復旧を並行して進めており、今年度災害復旧を終わることができ、河川堤防は被災前の防御水準を確保できそうです。防潮堤も平成 27 年の住宅立地前には順次盛り上げられ、防御水準も高まると考えます。

水門が完成し、堤防もそのまま造られた時に、大雨ないし津波警報が出て水門が閉めた場合、全く水は川に入らないのか？ また、その場合に何時間止めたら、川の水は堤防から溢れるのか？

→ 防波堤はフラップゲートであり、海から津波は入って来ませんが、川からの水は出ていく構造になります。

（市長）本日の県からの説明は、平成 27 年の完成が 29 年に延びるほか、宅地造成工事と時間のズレが生じることを説明しています。工事が早く終わるところとそうでないところがあることや、早く宅地ができて家が建てられる頃に防潮堤ができていないため、我々としては「安全ですからどうぞ建ててください」とは言えない状況になります。家を建てる方は自己責任で、建てていただきたいです。現に例えば東部では防波堤も防潮堤も無いですが、家を建てて住んでいる方もおりますので、ご理解いただきたいと思います。

3. 事業のスケジュールについて（釜石市都市整備推進室）

- ・ 市から土地区画整理事業の進捗状況、土地区画整理事業スケジュールの見直しについて説明をしました。
- ・ UR 都市機構から工事計画等（いつ頃から土地が使えるようになるか等）について説明をしました。

意見交換について

今後のスケジュールで、国道 45 号の工事予定はあるが、県道 35 号線の工事予定はないのか？

→ 県道 35 号線は宅地造成工事に合わせ、図のとおりを整備することを考えています。宅地造成で周りの宅地が上がるのと合わせ、平成 28 年 3 月に道路の埋設管工事等をはじめ、平成 29 年 3 月に完成させる予定です。非常に重要な道路であり 35 号線が使えるよう切り回しをし、仮道を造りながら工事を進めていきます。

県道 35 号線の幅員はどう変わるのか？ 位置が変わるだけなのか？

- 位置と幅が変わります。場所によって少し違いますが、現道幅員は 10m 弱です。両側に 2.5m の歩道が付き、12.5m に拡幅されます。

かさ上げは前の説明通りか？ どのような高さになるのか？

- 国道 45 号バイパス付近の宅地は、今の地盤高より 3.4m 程度かさ上げになります。盛土高は「この高さまで盛り土します」というステッカーを電柱に貼りますので、ご覧いただければと思います。

4. 市北部の公共交通に関する検討案について（釜石市復興推進本部事務局）

- 「にこにこバス」の現状と今後の方向性（公共交通のあり方の最適化案）を説明しました。

意見交換について

バスは家内が利用しており、本当にありがたいと思う。スタート時はデマンドで希望時間に来てもらえた。家内は定期便を一人で活用しているが、前日予約がネックになっている。今は希望時間に来て欲しくてもタクシーとは違うよとの話でだいぶ変わってしまった。これからの検討の要望だが、まとまった仮設団地では、週数日あるルートで運行してほしいし、各団地内の予定するところまで巡回してもらえれば、利用客が増えると思うので、検討してほしい。

- 古川議員：「にこにこバス」は周知の仕方が悪いのか、疑問な面があります。今説明がありましたが、予約制で新しいダイヤが必要なのかなと思いました。先日住民のヒアリングがあった時、「1本/時間くらい県交通のバスも通っており、仮設から県交通のバス停までピストンで出すなど工夫してはどうか」とのことでした。JR山田線が復旧されるかわからない中で、県交通に撤退されると公共交通が無くなることも本当にあるので、皆さんと一緒に研究したり、知ってほしいと思います。
- 周知の仕方に問題があったかもとのことですが、住民説明会を数カ所で行ったり、復興新聞に取り上げてもらうなど、いろいろ手を尽くしたつもりでした。しかし、皆さんに情報が届いていないのであれば、再度考えてみたいと思います。

（古川議員挨拶） JR山田線の復旧に関して、山田町で開く集会「三陸沿岸を鉄道でつなぐ市民の集い」をご紹介します。

今の「にこにこバス」と同様に興味を持ってほしいと思います。

（市長挨拶） 釜石市も含め、沿線で鉄道の復旧をしてほしいとJRにお願いをしています。宮古市・山田町・大槌町・釜石市ではJRから提案されたバスではなく鉄道復旧でとお願いをしましたが、JRから今度は三陸鉄道で運行してはどうかと提案を

されました。鉄路復旧の選択肢の一つであるため、現在岩手県が中心となって検討を進めています。話し合いがうまくいけば、大船渡市から久慈市までの12市町で確定し、改めて三陸鉄道にお願いすることになると思います。JRとの協議はいろいろ行っていますが、赤字補填の額等、納得がいかないところもありますし、一番の問題は、三陸鉄道の運行になると、山田町と大槌町も運行費用の負担が必要になることです。また、JRと協議がついても、住民や議会と合意形成を図る必要があります。そのため、皆さんが意見を出し、情報交換することが大切であり、先程の集いに参加してもらえればと思います。JRの話は今協議段階であり明確に言えませんが、皆さんが知り、お話ししていただくことが必要であり、よろしく申し上げます。